

科目名	言語学		
担当教員	遠藤 史		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年 【言語学入門】修得者は履修不可		
科目名(英語表記)	Linguistics		
授業の概要・ねらい	<p>私たちが日常使いこなしていることば(言語)。しかし言語そのものについて、私たちはどれほどのことを知っているのだろうか。いったん言語について観察し、よく考えていくと、そこには様々な興味深い現象や、自分が意識もしなかった規則性、そして言語間での多様性や普遍性などに気づく。言語は誰にとっても入りやすく、しかも奥が深い研究対象を提供してくれるものなのである。この講義では、言語そのものについて深く研究する「言語学」の入門編を講義し、言語の不思議な世界に受講生を招待したい。日本語や、様々な外国語について、具体的なデータを基にして共に考えていく。言語の世界の不思議さと奥深さを味わうとともに、多くの外国語の例にふれて視野を広げてほしい。</p>		
授業計画	回	内容	
	1	イントロダクション。言語学とは何か。合わせて授業全般に関するガイダンスを行う。授業のねらい・成績評価等について話す。	
	2	音声学・音韻論(1)人間の言語における様々な音声とその使い方。	
	3	音声学・音韻論(2)人間の言語における様々な音声とその使い方。	
	4	形態論(1)単語を作り出す仕組み。	
	5	形態論(2)単語を作り出す仕組み。世界の言語の形態論のタイプ。	
	6	統語論(1)文を作り出す仕組み。	
	7	統語論(2)複文を作り出す仕組み。代表的な複文のタイプ。	
	8	統語論(3)世界の言語の統語論のタイプと標示のしくみ。	
	9	類型論的に見た日本語:日本語を世界の他の言語と比べ、「外から見た」日本語の姿を描き出す。	
	10	言語の歴史的研究(1)時間軸に沿って見た言語の変化の諸相。	
	11	言語の歴史的研究(2)比較言語学入門。言語学は先史時代に遡れるか。	
	12	世界の言語と文字:系統から見た世界の言語。世界で使われる代表的な文字。	
	13	言語と社会(1)社会の中での言語の様々な姿を観察する。	
	14	言語と社会(2)地域によって異なる言語の様々な姿を観察する。	
	15	復習とまとめ、試験	
到達目標	言語学の基本的な概念を理解すること。身近な言語現象を言語学の観点から観察する視野を得ること。		
成績評価の方法	試験(80%)、授業への参加度(20%)		
教科書	担当者がプリントを用意する。特に購入する必要はない。		
参考書・参考文献	斎藤純男『日本語音声学入門』(三省堂) 西江雅之『新「ことば」の課外授業』(白水社)		
履修上の注意・メッセージ	言語学では、知識を活用して実際の練習問題に取り組み、手を動かしながら自分で考えてみる努力が求められます。予習復習・課題なども必要です。積極的な参加を望みます。		
履修する上で必要な事項			
受講を推奨する関連科目			
授業時間外学修についての指示	本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求めます。		
その他連絡事項			